

ラオスの こども通信

60号

2014年4月発行

発行：(認定)特定非営利活動法人 ラオスのこども

- 新プロジェクト、いよいよ始動 ▶P.1
- はじめる・つながる・つくりだす [2013.12-2014.3]
ラオス発 ▶P.2 日本発 ▶P.3
- みんなでボランティア ▶P.4
- 勉強会報告 ▶P.4
- メコンのほとり「住」 ▶P.4



新プロジェクト、いよいよ始動 学校から地域に広がる図書活動をめざして

なぜ、地域へ？

当会は新たなチャレンジとして、地域に展開し、地域に根ざす図書活動に向けたプロジェクトを開始しました。

これまで学校での図書活動は、休み時間に閲覧・貸出し、かつ授業の中で活用する展開を図ってきました。活動状況は学校によって様々ですが、学校には次の点が課題としてあります。

先生は放課後、畑仕事が忙しい。夏休みが3か月ある。先生の異動で活動の停滞が起こりやすい。

こうした問題にとらわれることなく、例えば夏休みも開いている地域文庫があれば、子どもたちは利用できます。子どもたちだけでなく、若いお母さんたちが立ち寄りたくするような文庫にすることも可能でしょう。

一般の人々にあまり読書習慣がないのがラオスですが、地域と結びついた図書活動はあります。例えば、ヴィエンチャン県のケオクー子どもセンターは、小学校の先生時代に当会の図書活動を通じて本好きになったシータン先生が家族ぐるみで地域文庫を開いたのが始まりでした。

また、サイヤブリー県では、図書ボランティアの中学生が近所の市場で働く人たちに本の出前貸し出しをしていました。このように地域文庫が育つ芽は、他の地域にもきっとあるはずです。



ナーマイ小学校 (3月4日訪問)

「学校図書室の地域への展開事業」

新たなプロジェクト、「学校図書室の地域への展開事業」はヴィエンチャン県の4郡と中国に近いルアンナムター県の2郡を事業地を選び、2月から動き出しました。

ヴィエンチャン県はスタッフが行き来しやすく、関与度を高めることができます。ルアンナムター県はアクセスはいいですが、多様な民族構成、低い識字率、その一方で中国などによる大掛かりな開発など社会変容のスピードが速く、関与の必要性が高い地域です。

現在、当会と教育局のスタッフが、子どもたち、先生と地域の人々に聞き取り調査をしながら、プロジェクトの適地を探しています。4月までに調査を終える予定です。

地域の芽を伸ばす。そのためには、これまで実績を積んできた学校図書室との連動を図るのが効果的と考え、選出した地域の学校図書室を強化することも重要な戦略と位置づけています。

地域文庫を開き、最初は子どもたちの場所に、さらに大人へと広げ、図書活動サポーターを育成していくのがめざす姿です。ラオス事務所スタッフの挑戦を応援してください。(森 透/理事)



ナートウン村 (3月3日訪問)

ラオス 発

「緊急募金」のご報告

前回の通信59号で「緊急のお願い」をさせていただきました。大変ご心配をおかけしましたが、おかげさまで、記事を読んだ多くの方々から、「緊急募金」としてご支援をいただくことができ、中断することなく活動を継続することができました。本当にありがとうございます。「活動を続けていただきたい」「困難な環境にある子どもたちの助けになるように」「MOU締結を祈ります」「がんばって下さい」などの書き入れも振替用紙にあり、事務局一同、活動が皆さまに支えられていることを実感し、元気づけられ、大変感謝しています。

ラオス政府との覚書(MOU: Memorandum of Understanding)は、1月13日、教育スポーツ省で署名、更新することができました。その結果、独立行政法人国際協力機構(JICA)との「学校図書室の地域への展開事業」は2月に開始しました。現在、ラオス事務所スタッフがヴィエンチャン県でデータ収集を始めています。



ラオス政府との覚書(MOU)を更新

引き続き「会員として」活動を支えて下さい!

会として、今回の緊急募金は日頃の組織力の弱さが基本にあり、より運営の改善を図る必要性があることを痛感しています。会は活動を始めて30年を越えますが、活動を支えて下さる活動会員とサポーター会員の方は合わせ200名程度で、決して多くありません。呼びかけ、お願いなども折あるごとにおこなっていますが、会員数はこの5年間ほとんど変わっていません。

ラオスの子どもたちの教育環境を改善する活動は、子どもたちの育つ権利を守り、より明るい世界を作っていくための運動です。この活動は、徐々にラオスの人々により担われてゆくべきとの思いから、活動の現地化、人材育成に積極的に取り組んでいます。まだしばらくの時間が必要です。

ぜひとも、ひとりでも多くの方々に仲間としてこの活動に参加していただき、ともに、子どもたちの未来が輝くよう、働き掛けを担っていただけますようお願いいたします。(野口 朝夫/事務局長)

の提案によって厳正な選考が行われました。2013年12月16日、授与式が行われ、100名が奨学生となりました。(森 透/理事)

学生団体スーンと連携し、学校図書室を開設

チャンパサック県の小学校で衛生教育や理科実験の支援をするスーンは、図書室開設の要請を受け、ラオスのこどもとの共同で実施しました。スーンにとっては初の物資支援。いかに現地の先生や村、子ども達が主体になって図書室の活動に取り組むことが大切か、そのための研修がいかに大切かを教わりました。

2月24日に開設。研修はプロのラオスのこどもに任せ、スーンは現地との信頼関係を生かして先生と図書室のスローガンを考えたり、子どもと飾りつけをしたりと役割分担しました。スーンのメンバーは、「開設と同時に子ども達が雪崩のように本に向かっていった姿を見て感動した。村人も参加した開設式での役人や先生の話から、本が学校にきたことの重要性を実感した。研修で消化しきれなかった内容は、その後先生方がどうしているかなどフォローアップしたい」と、次に向けて話しています。

(飯川 桃子/インターン、ラオス学校建設教育支援プロジェクト スーン)



図書室がオープンしたノンヴィエン小学校

図書室開設校を再訪

2012年3月に図書室を開設した小学校を2014年1月に6名で訪問しました。図書室の利用状況を知ること、子ども達との交流が目的です。子ども達から歌や踊りが披露され、私達も手袋人形を使った歌や動物絵本を紹介。最後は紙飛行機を作って楽しく遊びました。珍しそうにしていたのですが、すぐに飛ばせるようになりました。

中学校の整備された図書室も見学。先生のお話や図書室の様子から学校図書室支援や絵本などの必要性を実感しました。

(伊藤 るみ子/ラオスの子どもとつながる会)



ボンサワット第1小学校(ヴィエンチャン県)

タイ企業の奨学金プログラムで、審査と運營業務を受託

タイ、SCG(サイアムセメントグループ)による高校生対象の奨学金制度がラオスで実施され、当会は運營業務を受託。ヴィエンチャン都教育スポーツ局とともに審査委員を務めました。

審査は小論文で一次選考した後、学校と家庭を訪問。家計状況と子どもが家計のためにどれだけ自宅学習時間を削っているかを調査。さらに親も子どもの学業の意志に同意しているのかを確認(奨学金が正しく遣われるため)するなど、当会ラオス事務所スタッフ

<出版プロジェクト>

絵本『子ザルのまほうのしっぽ』

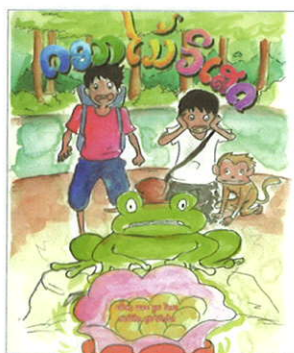
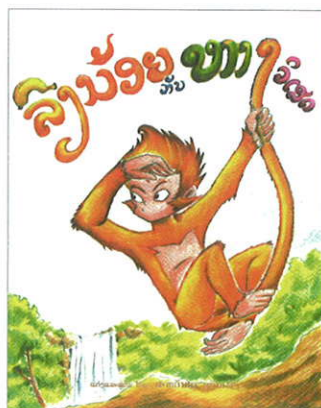
作・絵：サワンサイ・スワンペン

部数：3,950部

トラに群れを襲われ、しっぽをなくした子ザルは仲間はずれにされますが、神様から与えられた魔法のしっぽで仲間を助けます。なお、この絵本は、当会が出版した『外国のむかしばなし』が既刊絵本の絵に似ていたことから、差替え版として出版したものです。

支援：学習院女子大学 NGO 連 『子ザルのまほうのしっぽ』

携無償資金協力事業



『魔法の花』

絵本『魔法の花』

作・絵：アビシット・スパヴォンタイ

部数：2,000部

お祖母さんの病気を治そうと、魔法の花を探す兄弟のお話。しかしそれは人間をカエルに変えてしまう花だった。絵本作りワークショップに参加した青年が制作した作品です。

支援：NGO 連携無償資金協力事業

はじめてのラオス スタディツアー2013

2013年12月22～30日、日本と同じアジアの国の人や文化、暮らし、子どもの教育について少しでも理解を深めたいとの思いから、スタディツアーに参加しました。ヴィエンチャン、ムアンシンとルアンパバンを訪れた7泊9日の旅は、毎日が新しい発見と感動があり、短い滞在ながらラオスの文化と歴史の深さを垣間見ることができました。様々な変化が起きている中で、教育は自分の未来を選択する自由と力だと信じて、子どもたちの澄んだ笑顔が未来までずっと変わらないことを願っています。

(秋元 七生／ラオスのこどもスタディツアー2013参加者)



「おおきなかぶ」を披露(子どもセンター)

日本 発

「部支店で年に1つは環境・貢献活動」

2月19日、三井住友海上火災保険株式会社 総合営業第二部の「部支店で年に1つは環境・貢献活動」として絵本プロジェクトのイベントを行いました。日本の絵本にラオス語翻訳シートを貼ります。参加者26名で合計13冊のラオス語絵本が出来上がりました。また、ラオスの伝統衣装の巻スカート“シン”への質問もあり、ラオスと会の活動に関心をもっていたように思います。ありがとうございます。(加藤 彩／インターン)



三井住友海上火災保険株式会社の皆さん

高校へ出前授業

2月6日と13日、都立大田桜台高校で出前授業をしました。小学校低学年で落第、退学が多いという教育状況、会の活動紹介とともに、ベトナム戦争時の日本、ラオスの不発弾などにもふれました。また、日常に目を向け、乳母車を押したお母さんが駅の階段の前で困っていたら？という話題で話し合いました。



絵本などを入れる図書袋を紹介

ラオス語絵本づくりでは48冊が完成。ラオス語訳のシートを貼り終わった後、ラオス文字で各自名前を書きました。(森 透／理事)

「つむぐ そめる おる ラオスの織物の魅力」

2月21～25日、表参道のギャラリーMで「つむぐ そめる おる ラオスの織物の魅力」というテーマで、ホアイホン職業訓練センターで生み出された草木染めの染織品や衣服を紹介・販売しました。講演「受け継がれるラオスの伝統技法」が行われ、会場いっぱいの参加者はコーヒー・お菓子をいただきながら熱心に聞き、質問もたくさん出る盛況ぶりでした。初めての会場で、初めての方もたくさん来て下さいました。(後藤 さち子／理事)

みんなでボランティア

絵本の翻訳を続けたい

矢作衣里さん(東京外国語大学ラオス語専攻3年/ボランティア)

私はラオス語を生かしてラオスの子どもたちの教育の助けになる何かをしたいと思っていました。絵本の翻訳に興味があり、グローバルフェスタで「ラオスのこども」のブースを見つけ、スタッフさんに声をかけたら親切に教えてくださり、ぜひ関わりたいと思うようになりました。今、ラオス語に訳された日本の絵本の翻訳チェックのボランティアをしています。これからも絵本の翻訳を続け、将来はラオスに行って子どもたちに絵本の読み聞かせをしたいと思っています。



タートルアンにて

「勉強会」報告

第19回「識字って何だろう」

(2013年12月21日 ライフコミュニティ西馬込)

ラオスのこども勉強会チームから、ルアンパバンの村での識字についての聞き取り調査を報告しました。30代以上で読み書きできるのは6割台。読めない人は、村では自分の子どもや近所の人に聞くけれど、町に出ると困るとの声が紹介されました。

続いて小荒井理恵さん(ユネスコアジア文化センター)からアフガニスタンでの女子・女性のための識字活動についてのお話。識字率は、「読み書きできますか?」の問いに「はい」と答えた人の数で算出しますが、名前が書ける、薬が分かる、書類に記入ができる、などその内容は人によって様々。小荒井さんからは、その人が求めるものを大切にしたい識字の取り組みという視点が示されました。意見交換では、聞く・語る・読む、のつながりを見つめ、読み聞かせの大切さが見直されました。

第20回「ラオス料理を作って・食べて・おしゃべりしましょ」 (2014年2月15日 馬込文化センター)

前日からの大雪の中での料理教室。会の代表チャンタソンが講師となり、カオブン(ラオス風そうめん)・ウワ ドークケー(包み蒸し)・チェオマックレン(トマトのディップ)・カボチャのナムワーン(ココナツミルクとカボチャのお汁粉)を作りました。食事しながらラオスの食事情の話も。都市部は働く母親が増え、買ってきた総菜やインスタントラーメンで済ませたり、手作りのお菓子が減って、人気があるのはタイやベトナムのスナック菓子だそうです。



魚のすり身は、もち米を搗ったつなぎで

表紙の写真

ラオスでイクメン発見?! いえいえ、ラオスでは小学生でも赤ちゃんの面倒を見るのが当たり前。日本ではイクメン(積極的に育児をする男性)と言われますが、ラオスでは男性も子ども関係なく、家族みんなで赤ちゃんの面倒をみます。ご近所さんがお世話をしてくれることもめずらしくありません。信頼関係があってこそ出来ることだと思います。この男の子は、家にあった布を抱っこ紐のように上手に使っていて、赤ちゃんも気持ちよさそうにお外でお昼寝。村には微笑ましい光景がたくさんありました。

特定非営利活動法人 ラオスのこどもの目的は、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択でき、公正で平和な地球社会づくりに貢献することです。教育が十分に普及していない地域のひとつラオスで活動し、ラオスと日本をはじめ子ども、人々の参加を通じて、だれもが成長の機会を得ることをめざします。

ラオスのこども通信 60号

2014年4月発行 編集人: 森 透

発行: Action with Lao Children / Deknolao

(認定) 特定非営利活動法人 ラオスのこども

〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12 ミキハイツ303

TEL/FAX 03-3755-1603

e-mail: deknolao@yahoo.co.jp

http://deknolao.org

都営地下鉄浅草線 西馬込 南口下車 徒歩7分

郵便振替 00140-6-462494

これからの予定 2014年4月~12月

2014年も活動ミーティングを奇数月、勉強会を偶数月、それぞれ第3土曜日に開催します(一部異なる日もあります)。

<活動ミーティング>

現地報告、国内イベントの打ち合わせ、会の運営の意見交換などを行います。
5/17、7/19、11/15

<勉強会>

6/21、8/9、10/18、12/20

*各回とも内容は企画調整中です。日程とも変更になる場合があります。内容や会場とあわせ、詳細はホームページでお知らせします。みなさんの参加お待ちしております!

<イベントスケジュール>

・4月20日(日) ラオスのお正月 ピーマイ・パーティー2014

・5月2日(金)~6日(火) ラオス織物展示販売会 in 浅草

・5月24日(土)~25日(日) ラオスフェスティバル2014

*詳細は別紙をご覧ください。



キッチンには電気式の
レトロなコンロ

メコンのほとり住

アパートを借りる

ヴィエンチャンでの住まい探し。外国人用の情報紙では高・中級アパートや不動産屋の情報は得られますが、問い合わせると、たいがい満室。物価高の今、都市部のアパートは400ドル以下で見つけられたらラッキーだそうです。ある日、知人からの情報を頼りに物件を見に行くと、大家さんの子ども(少年)が部屋を案内してくれました。台所も好みにぴったりで即決。契約時、パ

スポーツのコピーや前家賃3か月が必要という不動産屋さんもある一方、信頼関係があれば約子定規ではありません。私は、「家賃の払いは毎月でもまとめてでも、どっちでもいいよ」と言われ、驚きました。大家さんは当会を知っているとのこと。活動に共感して好意的に対応してくれたのかもしれませんが(私の想像ですが)。

(本多 敏子/ラオス駐在スタッフ)



住まい近く、光の具合で趣を変える凱旋門